

A 赤い線の途中

標準の土台 | 目安 25分 | 全8問

体験・感想・後からの捉え直しを分ける

本文は本教材用に作成したオリジナル文章です。

① 机の引き出しを片付けていたら、夏休みに出かけた町の地図が出てきた。折り目が少し破れ、端に赤い線が何本も引かれている。中三になった夏、私は初めて友人と二人で隣の県の博物館へ行った。地図は駅の案内所でもらったものだ。その朝の私は、紙を一度も開かずに帰るつもりだった。携帯には行き方を調べて保存してあり、予定した道を間違えずに進むことが、うまく出かけることだと思っていた。

② ところが、駅前の工事で、目印にしていた店が幕に隠れていた。私たちは反対側へ歩き、予定したバスに乗れなかった。次の便まで三十分あった。私は画面を何度も戻し、どこで間違えたのか調べ続けた。友人は駅でもらった地図を広げ、喫茶店の印を指した。「ここ、近いよ」私は、余計なお金がかかる、と答えた。持ってきた飲み物は、まだかばんの中で冷たかった。

③ 結局、私たちは店には入らず、川沿いの道を少し歩いた。友人が欄干を指でなぞると、細い金属の音がした。少し先では、同じようになぞっても低い音になった。私は違いを確かめるために、わざわざ数歩戻った。予定から遅れているのに、どうでもいいことでまた時間を使っている。そう思いながら、もう一度、二つの音を聞いた。川の向こうには、地図では小さな四角だった建物が、驚くほど大きく立っていた。

④ その日の博物館では、見たかった展示を十分に見ることができた。帰りの電車で地図を折ろうとすると、友人が赤鉛筆を貸してくれた。私は歩いた道を線でなぞった。正しい経路とは違う枝が一本できた。消すことのできない赤鉛筆だったが、そのままにした。欄干の所には、音、と小さく書いた。何の音かまで書かなくても、分かるつもりだった。

A 赤い線の途中

標準の土台 | 目安 25分 | 全8問 | 本文つづき

段落番号は前のページから続きます。

⑤ 二か月後の今、地図を見ると、展示室で覚えたはずの年号より先に、あの欄干の音が浮かぶ。ただ、実際の高さを正確に思い出せるかというと、自信はない。高い音と低い音を、頭の中で勝手に作り直しているのかもしれない。それでも「音」の一字を見ると、私が数歩戻り、友人が先で待っていた位置までは思い出せる。印刷された地図にはない立ち止まった時間が、赤い線の途中に残っている。

⑥ だからといって、道を間違えたほうがよい旅になる、とまでは思わない。あの日も展示を見られなくなっていたら、私はかなり落ち込んだだろう。予定を調べておいたから、残りの時間を見て、歩いてみる余裕も持てた。うまくいかなかった部分を、後から全部すばらしい思い出に塗り替えたいわけでもない。画面を戻してばかりいた自分のいら立ちも、あの道の一部だ。

⑦ 新しい地図に同じ赤い線を写してみようとして、私は手を止めた。行ったことのある場所でも、まだ歩いていない道が多い。私の線は、町を分かった証拠ではない。その日の私たちが、どこを選び、どこで立ち止まったかの跡なのだ。次に行くときも行き方は調べると思う。ただ、帰りに地図を開いてみる楽しみを、今の私は知っている。折り目をそろえ直す前に、「音」の横へ、小さく「二つ」と書き足した。

選択問題は記号に○。記述は句読点・かぎカッコも1字です。

問1 ①段落の「紙を一度も開かずに帰るつもりだった」ことから分かる、当初の筆者の考えはどれですか。最も適切なものを一つ選び、記号に○を付けなさい。

ア 地図の情報は古いので、町の人にだけ道を聞くほうがよい。

イ 紙の地図を傷付けないように、記念品として保存するほうがよい。

ウ 予定した経路を迷わず進めれば、外出をうまくできたといえる。

エ 友人の決めた経路を変えれば、自分で計画する力が身に付く。

A 赤い線の途中

標準の土台 | 目安 25分 | 全8問 | 問題

本文は問題1～2ページ。選択問題は記号に○。句読点・かぎカッコも1字です。

問2 ③段落で筆者が数歩戻ったときの様子として、適切なのはどれですか。最も適切なものを一つ選び、記号に○を付けなさい。

- ア 遅れを気にしながらも、欄干の音の違いへの興味を抑えられない。
- イ 博物館へ行くことを諦め、音を調べる新しい計画だけに集中している。
- ウ 友人の行動が危険だと思い、音を出すのをやめさせようとしている。
- エ 音の違いは気のせいだと決め、間違いを証明しようとしている。

問3 ⑤段落で筆者が述べている記憶について、適切なのはどれですか。最も適切なものを一つ選び、記号に○を付けなさい。

- ア 音の高さを正確に再現できるため、その日の出来事もすべて確実に覚えている。
- イ 音自体の正確さには自信がないが、書き込みによって二人の動きや位置が思い浮かぶ。
- ウ 音の高さを忘れたため、その場所へ寄った意味も失われてしまった。
- エ 年号は覚えていないが、地図に書いたことで試験に必要な知識が増えた。

問4 ⑤段落で、赤い線に含まれている、印刷された地図にはないものを表す連続した言葉を、本文の⑤段落から、8字で抜き出さなさい。

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

 8

問5 ⑥段落を置いた意図として、最も適切なのはどれですか。最も適切なものを一つ選び、記号に○を付けなさい。

- ア 迷うことや失敗を全面的に勧める読み方を避け、計画や当時の不満も含めて体験を捉えるため。
- イ 博物館の展示を見るより、迷って歩くほうが価値が高いと証明するため。
- ウ 予定を調べること自体が無意味であると、別の経験によって結論付けるため。
- エ 友人に任せて歩いたことが間違いだったと明らかにし、責任を求めるため。

A 赤い線の途中

標準の土台 | 目安 25分 | 全8問 | 問題

本文は問題1～2ページ。選択問題は記号に○。句読点・かぎカッコも1字です。

問6 筆者にとって赤い線のある地図は、普通の案内図に加えて、どのようなものになりましたか。具体的な体験を一つ挙げて、50字以上80字以内で説明しなさい。

[illegible]

問7 この随筆を「予定から外れれば必ずよい発見がある」という主張にまとめるのは適切ではありません。⑥段落の内容を二点使い、60字以上90字以内で説明しなさい。

[illegible]

問8最後に「音」の横へ「二つ」と書き足したことは、筆者のどのような姿勢を表していますか。⑤・⑦段落と結び付けて、50字以上80字以内に説明しなさい。

[illegible]

B パンが冷めるあいだ

標準 | 目安 25分 | 全8問

自分の発見と他者の感じ方を混同せず読む

本文は本教材用に作成したオリジナル文章です。

① 朝食のパンは熱いうちに食べるものだ、と私は思っていた。表面がぱりっとして、バターが角から溶けていく。その短い間に食べ始められた朝は、一日の出だしまでうまくいった気がする。母もパンを焼くと、早く食べなさい、と言う。私はその言葉を、家を出る時間だけでなく、おいしい瞬間を逃さないための注意として聞いていた。

② ある土曜日、近所の小学生に本を読む会で、会場の鍵を開ける係を引き受けた。家を出る前に担当の人から電話があり、使う部屋が急に変わった。私はパンを一口かじったまま、机で座席の図を描き直した。電話を切った後も、入り口の位置が気になった。母は買い物に出て、台所には洗い終えた皿が伏せてあった。ようやく朝食へ戻ると、パンの上のバターは薄い膜になっていた。

③ もう一度焼こうとして、私はトースターの前で止まった。表面を焼き直せば、端が焦げるかもしれない。結局、そのままかじった。思っていたほど嫌な味ではなかった。熱さに紛れていた小麦の匂いが、噛んだ後にゆっくり鼻へ抜けた。端の硬い所と真ん中の柔らかい所の違いも、いつもよりはっきりした。私は皿を回し、初めにかじった所の反対側から、もう一口食べた。

④ 冷めたパンのほうがおいしい、とその場で結論を出したわけではない。次の日には、やはり焼きたてを食べた。けれど、以前のように最後の一切れまで急いで口へ運ばなくなった。おいしい瞬間が過ぎたら、残りは仕方なく食べる時間になる。そう思っていたのは、私のほうだったのかもしれない。温度が変わると、同じパンの別の部分が前へ出てくる。そのことを、私は少し面白く感じた。

B パンが冷めるあいだ

標準 | 目安 25分 | 全8問 | 本文つづき

段落番号は前のページから続きます。

⑤ その週の終わり、母の皿にパンが半分残っていた。母は洗濯機の音を聞いて席を立ち、戻る途中で窓を閉めた。「冷めちゃったね」と私が言うと、母は、いつもこんなものだよ、と答えた。私はそのとき初めて、母の「早く食べなさい」が、母自身の食べ方と同じではなかったことに気付いた。母がパンの匂いをどう感じているかは分からない。ただ、私が熱いうちに食べている間にも、別の時間が台所を通っていた。

⑥ 私は、自分が使ったコップを流しへ運んだ。母は冷めたパンを特別に味わう様子もなく、次に買う洗剤の話をした。その普通の様子に、少しほっとした。あの土曜日の発見を話せば、母も同じように感じてくれるとは限らない。冷めたパンをおいしく思うことで、誰かの忙しさまでよいことに変えてしまうのは違いうだろう。私は味の話之急いでせず、洗剤の名前を紙に書いた。

⑦ 今でも、焼きたての一枚を前にすると急ぎたくなる。けれど、途中で手が止まっても、その朝が失敗になったとは思わない。パンの温度は下がる。その変化を惜しむだけでなく、今はどんな匂いがするか確かめることもできる。一枚のパンから、毎朝の正しい過ごし方が分かったわけではない。ただ、皿の上のものも、同じ卓にいる人の時間も、自分の決めた一つの速さでは測れないと感じるようになった。

選択問題は記号に○。記述は句読点・かぎカッコも1字です。

問1 ①段落で筆者が「一日の出だしまでうまくいった気がする」のは、どんな朝ですか。最も適切なものを一つ選び、記号に○を付けなさい。

ア 母より先に起きて、全員のパンを同じ温度で焼けた朝。

イ 予定を作らずに、好きな時間までゆっくり朝食を取れた朝。

ウ パンが熱くバターが溶ける短い間に食べ始められた朝。

エ 朝食を取らずに出かけて、家事を早く終えられた朝。

B パンが冷めるあいだ

標準 | 目安 25分 | 全8問 | 問題

本文は問題5～6ページ。選択問題は記号に○。句読点・かぎカッコも1字です。

問2 ③段落の体験として、本文に合うものはどれですか。最も適切なものを一つ選び、記号に○を付けなさい。

- ア 焼き直して端を焦がしたため、熱いパンへのこだわりを失った。
- イ 冷めたパンを食べ、匂いや部分ごとの食感に新しく気付いた。
- ウ 友人の感想を聞き、冷たいパンのほうがおいしいと結論付けた。
- エ 会場へパンを持ち込み、子どもと分けたことで味が変わった。

問3 ④段落の「そう思っていたのは、私のほうだったのかもしれない」とは、何を捉え直した言葉ですか。最も適切なものを一つ選び、記号に○を付けなさい。

- ア 熱い時期を過ぎれば、残りは我慢して食べるしかないという自分の見方。
- イ 母が冷たいパンを好むため、自分も真似しなければならないという決まり。
- ウ パンを焼かない朝は、家族全員が不満を持つという観察結果。
- エ 冷めたパンの食感は、誰にとっても熱いパンより優れているという発見。

問4 ⑤段落で、筆者が食べている間にも母の家事などが進んでいたことを比喩的に表す、「別の時間が」に続く言葉を、本文の⑤段落から、8字で抜き出さなさい。

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

 8

問5 ⑥段落で筆者が味の話を急いでしなかった理由として、適切なのはどれですか。最も適切なものを一つ選び、記号に○を付けなさい。

- ア 母が味より洗剤の話を優先したので、自分の発見には価値がなかったと思ったから。
- イ 自分の味の発見を母にも当てはめ、その忙しさをよいものと決め付けたくなかったから。
- ウ 冷めたパンの匂いが嫌いになり、土曜日の感想を全部取り消したかったから。
- エ 忙しい朝にも冷めたパンを味わう余裕が必要だと、母に遠回しに伝えたかったから。

B パンが冷めるあいだ

標準 | 目安 25分 | 全8問 | 問題

本文は問題5～6ページ。選択問題は記号に○。句読点・かぎカッコも1字です。

問6 ③・④段落の体験を経て、筆者の「おいしい瞬間」に対する考えはどう変わりましたか。50字以上80字以内で説明しなさい。

[illegible]

問7 ⑤段落で筆者が気付いた、自分と母の朝の過ごし方の違いを、「早く食べなさい」という言葉との関係を含め、50字以上80字以内で説明しなさい。

[illegible]

問8 ⑦段落の「一つの速さでは測れない」とはどういうことですか。パンと人の時間の両方に触れて、60字以上90字以内で説明しなさい。

C 名前の札の後ろ

発展・応用 | 目安 30分 | 全8問

比喻と限定表現から、筆者の考えを正確に読む

本文は本教材用に作成したオリジナル文章です。

① 春から、家の近くの調整池へ鳥を見に行っている。水がたまる場所で、周りには遊歩道がある。始まりは学校の課題だったが、提出が終わってからも時々寄るようになった。最初のころのノートには、「黒い鳥」「大きい鳥」といった言葉ばかりが並んでいる。写真を撮って図鑑と比べても、同じような姿が何種類もあり、なかなか決められなかった。名前の欄が空いたままだと、観察をしていないような気になった。

② ある朝、首をすばやく前後させて歩く黒い鳥を見付けた。池でよく会う人に尋ねると、額が白いからオオバンだよ、と教えてくれた。私はすぐにノートへ書き込んだ。白い額は、言われるまで見えていなかった。名前を知ったとたん、ばらばらだった黒い姿が一つに集まったように感じた。別の日に同じ鳥を見つけても、前より早く目で追える。名前は、次に会うための目印になった。

③ そのうち、池を一回りする時間が短くなった。オオバン、カモ、サギ。知っている名前を小声で言い、ノートに線を一本足して次へ進む。記録の欄は埋まっていったが、帰ってから何を見たか話そうとすると、名前以外が出てこない。私は「今日は特に変わったことはなかった」と言った。その朝の鳥が本当にいつもと同じだったかどうかは、確かめていなかった。

④ 雨上がりの日、一羽のオオバンが岸の枯れた茎を引っばっていた。茎はなかなか抜けず、鳥は首の向きを何度も変えた。いつもなら名前を書いて通り過ぎる所だが、その日は立ち止まった。ようやく取れた茎をくわえて水へ戻る。少し離れた場所で、また同じように岸へ上がった。何のために運ぶのか、私には分からなかった。しばらく見ていたが、行き先は草に隠れ、確かめられなかった。

C 名前の札の後ろ

発展・応用 | 目安 30分 | 全8問 | 本文つづき

段落番号は前のページから続きます。

⑤ 私はノートに、見た動きを順番に書いた。「巣の材料かもしれない」と書きかけ、かもしれない、の部分に線を引いた。家で調べれば答えが出るかもしれないが、今ここで見たこととは分けておきたかった。名前を知っている鳥にも、知らない動きがある。いつの間にか私は、名前の札を掛けたところで、見るのを終えていたらしい。札を外す必要はない。ただ、その後ろをもう一度のぞいてみたかった。

⑥ 最近は、名前が分からない鳥を見ても、空欄をすぐ埋めようとはしなくなった。まず足の動きや水に入る位置を書き、分かる特徴を確かめる。後で名前が判明すると、前の日の記録と比べやすくなり、同じ種類だと思っていたものが違ったと気付くこともある。名前を知らないほうがよく見える、という話ではない。私には、名前に助けられた朝も、名前だけで済ませてしまった朝もあるのだ。

⑦ 今日のノートには、鳥の名の横に「茎は三本」と書いた。その下はまだ空いている。空白は、観察が足りなかった印でもあるだろう。けれど以前のように、全部を埋めれば終わりだとは思わない。次に来たら、運んだ先を、離れた所から静かに見てみたい。分かったことを書くためのノートが、分からないことを持って帰る場所にもなった。池を出るとき、私はもう一度岸を見た。名を呼ぶより先に、黒い背中が動くのを待った。

選択問題は記号に○。記述は句読点・かぎカッコも1字です。

問1 ②段落で名前を教わったことは、筆者の観察にどう働きましたか。最も適切なものを一つ選び、記号に○を付けなさい。

ア 以前は気付かなかった特徴に目が向き、次にも同じ鳥を探しやすくなった。

イ 黒い鳥はすべて同じ種類だと分かり、違いを調べる必要がなくなった。

ウ 鳥の動く理由がすべて分かり、観察を短時間で終わらせるようになった。

エ 名前だけで鳥を分かった気になり、その場で特徴を探すことができなくなった。

C 名前の札の後ろ

発展・応用 | 目安 30分 | 全8問 | 問題

本文は問題9～10ページ。選択問題は記号に○。句読点・かぎカッコも1字です。

問2 ③段落で「特に変わったことはなかった」と言った筆者の問題点はどれですか。最も適切なものを一つ選び、記号に○を付けなさい。

ア 同じ種類の鳥しかいないことを、十分に観察してから判断していた。

イ 記録した名前を全部忘れたことを、家族に隠そうとしていた。

ウ 行動の違いを確かめず、見慣れた名前だけで新しい出来事はないと判断していた。

工池へ行かなかったのに、観察したふりをして名前を書いていた。

問3 ④・⑤段落を踏まえ、筆者が実際に確かめたことはどれですか。最も適切なものを一つ選び、記号に○を付けなさい。

ア 鳥は巣作りを終え、仲間に三本の茎を渡した。

イ鳥は莖を引き抜き、くわえて水へ戻った。

ウ 鳥は子どもに餌を運ぶため、岸へ戻った。

エ 鳥は筆者を警戒したので、運び先を変更した。

問4 ⑤段落で「見るのを終えていた」の直前にある、「札」を使った比喩的な表現を、本文の⑤段落から12字で抜き出しなさい。

[illegible]

12

問5 ⑥段落の「名前を知らないほうがよく見える、という話ではない」が果たす役割はどれですか。最も適切なものを一つ選び、記号に○を付けなさい。

ア 名前の記憶が観察を妨げるため、図鑑を使わないよう勧める。

イ名前を知ることの利点を保ちながら、それだけで観察を終えないという考えを明確にする。

ウ 動きより先に必ず名前を覚えるという、新しい観察の手順を定める。

エ 分からない鳥の記録は価値がないと述べ、空欄をなくす必要を強調する。

C 名前の札の後ろ

発展・応用 | 目安 30分 | 全8問 | 問題

本文は問題9～10ページ。選択問題は記号に○。句読点・かぎカッコも1字です。

問6 ⑤段落の「札を外す必要はない。ただ、その後ろをもう一度のぞいてみたかった」とは、観察をどう変えたいということですか。50字以上80字以内で説明しなさい。

[illegible]

問7 ⑤段落で「かもしれない」に線を引いたのはなぜですか。見たことと、これから確かめることの違いに触れて、50字以上80字以内で説明しなさい。

[illegible]

問8 ノートの空欄に対する見方は、①段落から⑦段落にかけてどう変わりましたか。次の行動とのつながりも含め、60字以上90字以内で説明しなさい。

D 傘の内側

入試形式テスト | 目安 30分 | 全8問・100点

具体的体験・比喻・結末を根拠に考えを説明する

本文は本教材用に作成したオリジナル文章です。

① 雨の日、私は傘の縁ばかり見て歩いていたらしい。新しい傘を買った翌週、友人に「それ、中が青いんだ」と言われて、初めて柄を高く持ち上げた。外側は灰色で、内側だけに薄い青の模様がある。店で開いたときにも見ていたはずなのに、私は軽さと畳みやすさだけを覚えていた。青は空の絵ではなく、細かな点が寄り集まった模様だった。私はしばらく見上げてから、信号の色を確かめた。

② その傘で帰る途中、雨が強くなった。屋根に当たる雨粒は、家の窓越しに聞く雨音よりずっと近い。広い通りから細い道へ入ると、今度は塀から落ちるしずくが低い音で混じった。私は傘の柄を少し傾け、音の変わり方を確かめた。肩がぬれたので、すぐに戻した。雨に包まれるのが好きだと言い切るには、靴の中が湿っていて、かばんも重かった。

③ 家でその話をすると、弟は、自分の傘はもっと大きな音がする、と言った。見せてもらおうと、弟の傘は透明だった。次の雨の日、玄関の屋根の下で二本の傘を順番に差し出し、音を聞き比べた。素材も大きさも違うから、音が違うのだろう。ただ、雨の強さも途中で変わり、どちらがいつも大きいかなまでは分からなかった。弟は自分の傘のほうが好きだと言った。私は青い内側のほうへ戻った。

④ しばらくして、急な雨に降られた友人と、駅まで一本の傘に入った。傘を二人の真ん中に持つと、いつもより雨音が遠かった。代わりに、友人の靴が水を踏む音がすぐ横で聞こえた。歩くたび、二人の肩の間に小さな隙間ができ、そのたびに傘の位置を直す。一人のときには気にならなかった傘の幅を、私は何度も確かめることになった。駅に着くころ、二人とも片方の袖がぬれていた。

D 傘の内側

入試形式テスト | 目安 30分 | 全8問・100点 | 本文つづき

段落番号は前のページから続きます。

⑤ 傘の中は自分だけの小さな部屋だと、私はそれまで思っていた。けれど二人で入ってみると、その部屋の形は固定されていなかった。物としての傘の大きさは変わらないのに、誰がどこを歩くかで、守れる場所とぬれる場所が変わる。友人が持ってみると言い、柄を渡したときには、同じ青い模様が少し高くなった。自分の傘なのに、借りているような不思議な気分がした。

⑥ 帰宅して、傘を開いて乾かした。青い模様の下に立っても、部屋の中では雨音がしない。柄を傾けても、友人の歩く音は戻らない。私は、傘だけに面白さが入っているわけではないのだと思った。その日の雨や歩く道、一緒にいる人が、傘の内側の感じを少しずつ変える。物を一つ選べば、いつでも同じ気分を取り出せるわけではなかった。

⑦ 次に雨が降ったら、また音を聞くだろう。だからといって、雨の日の遅れるバスやぬれた靴を好きになったわけではない。気になるものを一つ見付けても、不便さはそのまま残る。それでも、早く帰りたと思うだけだった道で、足を進めながら耳を澄ませることはできる。傘を畳むと、青い模様は外から見えなくなった。弟は私の傘を「灰色の」と呼ぶ。私が同じ傘を思い浮かべるときには、内側の青と、あの日の二人分の足音が先に浮かぶ。

選択問題は記号に○。記述は句読点・かぎカッコも1字です。

問1〔8点〕 ①段落で友人の言葉が筆者にもたらしたことはどれですか。最も適切なものを一つ選び、記号に○を付けなさい。

ア 友人の傘との色の違いが気になり、見栄えを重視して傘を使うようになること。

イ 機能ばかりを気にしていた傘について、内側の模様にも目を向けること。

ウ 傘の内側に空の写真が印刷されていると知り、天気を確認すること。

エ 青い傘のほうが軽いと分かり、弟の傘と交換すること。

D 傘の内側

入試形式テスト | 目安 30分 | 全8問・100点 | 問題

本文は問題13～14ページ。選択問題は記号に○。句読点・かぎカッコも1字です。

問2〔8点〕 ③段落の傘の音について、筆者の書き方の特徴はどれですか。最も適切なものを一つ選び、記号に○を付けなさい。

- ア 一度の聞き比べだけで、透明な傘は必ず大きな音がすると決めている。
- イ 弟の好みが自分と違うため、弟の聞いた音が間違いだと判断している。
- ウ 素材や大きさを原因の候補としつつ、雨の強さも変わったため結論を限定している。
- エ 音の違いを全部気のせいとし、聞き比べに意味がなかったと否定している。

問3〔8点〕 ④段落で、二人で傘に入ったために筆者が新しく意識したことはどれですか。最も適切なものを一つ選び、記号に○を付けなさい。

- ア 友人との位置に合わせて、傘が覆う幅や置き方を調整する必要があること。
- イ 二人の歩幅を同じにすれば、傘を動かさなくても雨を防げること。
- ウ 一人で使うよりも内側が広く感じられ、周囲の雨音をよく聞けること。
- エ 友人に傘を持ってもらうほうが、二人とも雨にぬれずに歩けること。

問4〔8点〕 ⑤段落で、一人で傘に入っていたときの感覚を、住まいにたとえた連続した言葉を、本文の⑤段落から、10字で抜き出ささい。

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

 10

問5〔8点〕 ⑦段落に「不便さはそのまま残る」とあることの効果として、適切なのはどれですか。最も適切なものを一つ選び、記号に○を付けなさい。

- ア 雨の日に面白さを見付けることが、不便さを消すこととは別だと明確にする。
- イ 雨の日に面白さを感じた前の体験を、すべて誤りとして取り消す。
- ウ 不便さを受け入れることが、雨音を楽しむための条件だと強調する。
- エ 自分の気付きより雨の日の欠点を重く見て、面白さの価値を小さくする。

D 傘の内側

入試形式テスト | 目安 30分 | 全8問・100点 | 問題

本文は問題13～14ページ。選択問題は記号に○。句読点・かぎカッコも1字です。

問6〔20点〕⑤段落の「その部屋の形は固定されていなかった」とは、どのようなことですか。二人で歩いた体験を使って、50字以上80字以内で説明しなさい。

[illegible]

問7〔20点〕⑥段落で筆者が「傘だけに面白さが入っているわけではない」と考えた理由を、家での体験と雨の日との違いを示して、60字以上90字以内で説明しなさい。

[illegible]

問8〔20点〕最後に弟が「灰色」と呼ぶのに対し、筆者が青や足音を思い浮かべる対比には、何が表れていますか。筆者の体験を根拠に、60字以上100字以内で説明しなさい。

[illegible]